



第2部 基本構想

令和3年度（2021）
～
令和12年度（2030）

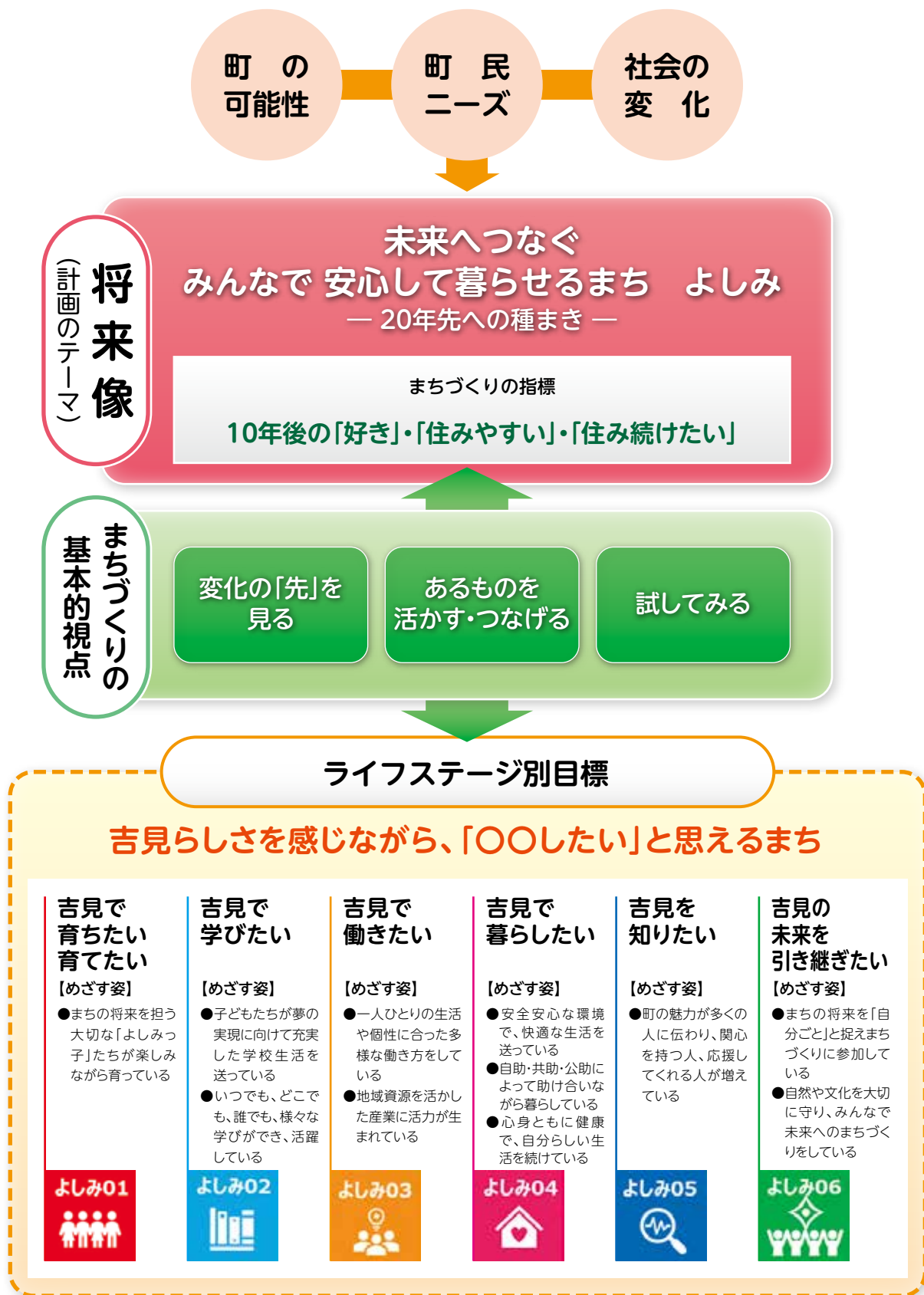
基本構想

- 将来像・まちづくりの指標
- 基本的視点
- ライフステージ別目標
- 人口規模とまちづくり
- 未来地図

基本計画

- ライフステージ別目標がめざす姿
- 評価指標
- めざす姿を実現するための取組


第1章 基本構想体系図

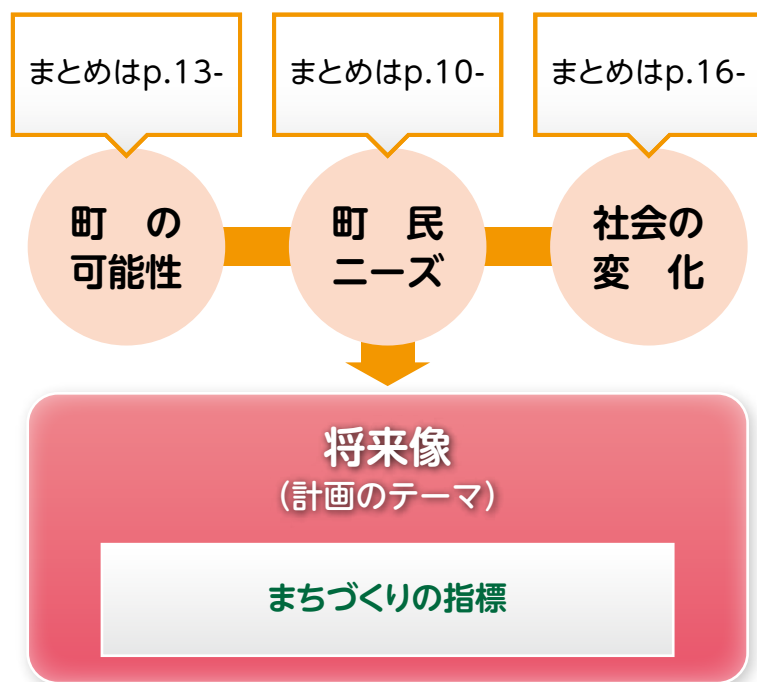


第2章 将来像とまちづくりの指標 (KGI^{viii})

まちづくりには、みんなで共有する「吉見町をこんなまちにしていきたい」というイメージや目標が必要です。吉見町ではどんなまちづくりをしていくか、説明します。

? 吉見町は、何を目指しているの?

 この計画は、今後の人口推移予測^{ix}などに基づいて、10年後を「ゴール」ではなく、20年先への「通過点」という考え方で整理しています。吉見町の可能性、これから予想される社会の変化、町民のみなさんの想いをもとに、「20年先を見据えて、こういうまちづくりを進めよう」というイメージを『将来像（計画のテーマ）』としてまとめました。



そして、実際に将来像へと近づいているのか、それを確認する目安として「まちづくりの指標 (KGI)」を設定します。

^{viii} KGI (ケー・ジー・アイ) / 重要目標達成指標、「Key Goal Indicator」の略。過程を評価する中間指標 KPI (ケー・ピー・アイ / 重要業績評価指標・Key Performance Indicator) に対して、KGI は最終目標という違いがある。

^{ix} 人口推移予測 / 詳しくは第5章「人口規模とまちづくり」を参照

将来像

(計画のテーマ)

未来へつなぐ
みんなで安心して暮らせるまち よしみ
—20年先への種まき—

将来像にこめた想い

未来へつなぐ

人口減少や少子高齢化が進行するなかでも、「一人ひとりが未来に希望を持てるまちにしよう」、「吉見ならではの自然や田園風景、人と人のつながり、伝統や文化など、大切にしてきたものを未来につなげていこう」、「次の世代が安心して引き継げる、引き継ぎたいと思えるまちづくりを進めていこう」という想いを、『未来へつなぐ』にこめています。

みんなで安心して暮らせるまち

自然災害、新型コロナウイルス感染症などの経験を通じて、お互いに助け合い、支え合いながら笑顔で過ごせる「ふつうの暮らし」がかけがえのないものであったと、多くの人が気付かされました。先の見えない不安を感じる時代だからこそ、便利さや物質的な豊かさはもちろん、お金では測れない安全や安心、心の豊かさも大切になっています。吉見町に関わる様々な人たちが、みんなで考え、みんなで助け合い、それぞれの幸せを実感しながら、安心して暮らせるまちを実現していこうという想いをこめています。

20年先への種まき

将来の世代のニーズを満たしつつ、現在の人々のニーズも満足させる持続可能なまちづくりへの想いから、10年後のゴールではなく、10年後からスタートするまちづくりも見据えて、子どもや孫たちの世代のために、今から種をまいていこうという想いをこめています。

まちづくりの指標(KGI)

これからのまちづくりが、実際に将来像へと近づいているのかを確認するため、将来の吉見町に住む町民のみなさんの評価「好き」、「住みやすい」、「住み続けたい」をまちづくりの指標にします。

ポイントは「10年間、何をどれだけやったか」ではなく、「それらの取組をした町を、10年後、人がどう感じるか」という基準でまちづくりを測ることで。

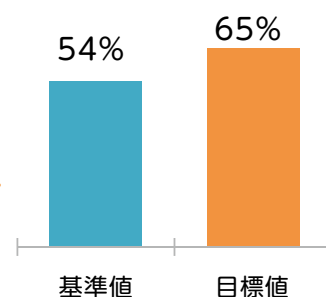
3つの指標(基準値と10年後の目標値)

● 吉見町のことが好き

吉見町が好きだと感じている町民の割合は、現状から約10ポイントの向上を目指します。

※アンケート設問内容

あなたは、吉見町のことが好きですか？
(「好き」、「どちらかといえば好き」の合計)

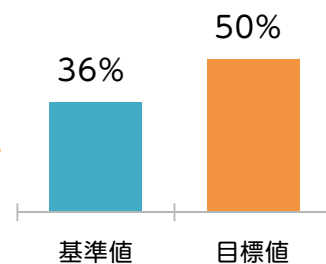


● 吉見町は住みやすい

住みやすいと感じている町民の割合は、50%水準を目指します。

※アンケート設問内容

あなたは、吉見町を住みやすいまちだと思いますか？
(「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計)

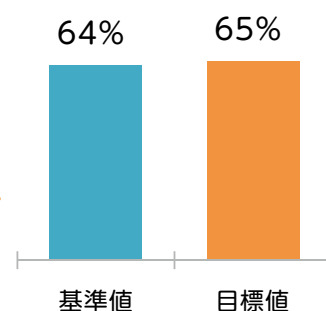


● 吉見町に住み続けたい

住み続けたいと思っている町民の割合は、現状維持を目指します。

※アンケート設問内容

10年後、あなたは吉見町に住んでいると思いますか？
(「住んでいる」、「多分、住んでいる」の合計)



❓ どうして、『好き』、『住みやすい』、『住み続けたい』、全部 100%を目指さないの？

💡 様々な調査から『好き』と『住みやすい』は必ずしもイコールではない、ということが分かってきました。

例えば、『好き』の理由である「自然」、「広々とした風景」などが、そのまま「何もない」、「不便」など、『住みにくさ』の原因として出てきます。吉見町のまちづくりでは、人口減少と少子高齢化が同時に進行するなかで、『好き』を失うことなく、『住みやすい』を向上させるバランス感覚が必要です。



❓ 『住み続けたい』の目標が、現状維持はどうして？

💡 進学や就職、結婚などを機に吉見町を離れる人が多いことについて、「さみしい」という声が聞かれる一方、ワークショップでは「有名人など、世界に羽ばたく人材は町の誇り」、「Uターンして、吉見の良さに気付いた」という意見がありました。

町外へ出ることにプラスの側面があり、一度町外に出ても、人生の様々なタイミングでまた吉見町に戻ってくる方がいます。

『ずっと住み続けますか』の答えが「No」で町を離れることがあっても、『好き』や『住みやすい』が「Yes」なら、「ただいま／おかえりなさい」と迎えられる割合は増えていくはずです。

また、『好き』、『住みやすい』の向上は、町民の『定住意向』に加えて、Iターン^xやJターン^{xi}など、町外からの移住意向も高めていくと考えています。

❓ それじゃあ、『好き』や『住みやすい』が向上する対策を、どんどんやるの？

💡 そうですね。そうなるように、みんなで一緒に頑張っていきましょう。でも、大切なのは「将来像」に近づいていくことです。『好き』や『住みやすい』が向上しても、未来へつなげない、みんなが安心して暮らせないとしたら、それは私たちが本当にやりたいまちづくりではないかもしれません。

^x Iターン／豊かな自然や穏やかな生活環境などを求めて、出身地と異なる土地へ移住すること

^{xi} Jターン／生まれ育った故郷から進学や就職で一旦都市部に移住した後、故郷に近い土地（出身地とは異なる）へ移住すること

特別
企画

未来へつなぐ みんなの想いを大募集

あなたの「○○したい」 1



第3章 基本的視点

将来像の実現に向けたまちづくり、各種の取組を進めていく上での「基本的視点」を、次のように定めます。

①変化の「先」を見る

社会や時代は、じっと待ってくれません。私たちが対策を考えている間にも、どんどん変化していきます。一過性のブームを「変化」と見誤り、振り回されてしまうことも珍しくありません。

人口減少と少子高齢化の進行、便利な技術や機器の普及、自然環境や価値観の変化など、様々なことが影響して私たちの生活も、今とは変わっていきます。

これまでと今の違いだけでなく、10年後は何が変わるのか、20年先はどうなっていくのか、いま起こっている変化の「先」に目を向けてみましょう。変化の「先」を見て準備や調整ができれば、変化を恐れずに未来を迎えることができます。



②あるものを活かす・つなげる

島根県隠岐諸島にある人口約2,300人の町「海士町」(あまちょう)は、平成23年(2011)に「ないものはない」を宣言し、あるものを磨く独自のまちづくりを進め、いま地方創生のトップランナーになっています。



吉見町にも、自然や風景、歴史・文化、特産品の吉見いちごなどの誇れる地域資源があり、町民、事業者、各種団体など、年齢や性別、立場にかかわらず、まちづくりに関わる様々な人たちがいます。

気付いていないだけで、未来につながるまちの個性や魅力の種を、私たちはもう手にしているかもしれません。



③ 試してみる

社会や時代の変化によって、今まで成功していた方法が通用しなくなることがあります。変化の「先」を見て、あるものを活かし・つなげる方法を考えても、それが思ったとおりの結果につながるかは、誰にも分かりません。

何が起こるか、あらかじめすべてを正確に予測できない状況では、本格的に踏み出す前に「試してみる」ことが大切です。

やってみる、やめてみる、増やしてみる、減らしてみる…など、実際に試すことで、初めて分かることがあります。事前の予想と異なる結果が出ても、その教訓や経験を活かした修正や調整、もう一度「試してみる」など、より良い次の一步を踏み出していくことができます。



3つの視点に気をつけながら
まちづくりを進めるんだね。



島根県隠岐郡海士町の「ないものはない」宣言

この言葉には、「①無くてよい」、「②大事なことはすべてここにある」という二重の意味があるそうです。

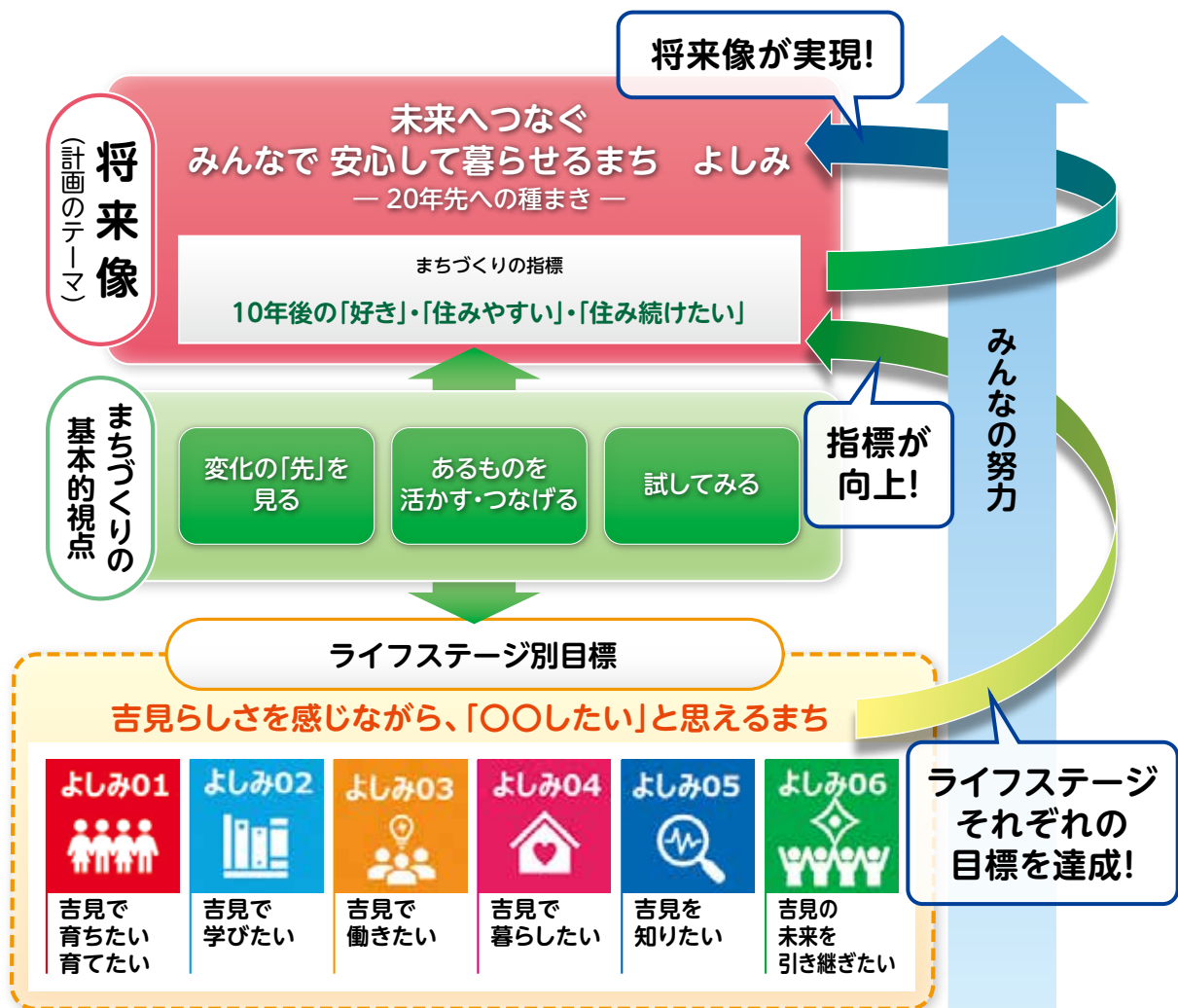
地域資源を活かした特産品づくり（島じゃ常識さざえカレー、海士乃塩など）に加えて、島全体をキャンパスに見立て、町の課題解決や交流体験を通じて学ぶ「海士大学構想」など、人づくり分野でも「あるもの」を磨く独自の取組を続けています。平成16年（2004）以降の14年間で428世帯、624人が島に移住するなど、新しい挑戦をしたいと思う若者たちが集う離島として、注目を集めています。

第4章 ライフステージ別目標

? 何となく分かってきたけど・・・、「未来へつなぐ」とか、「20年先への種まき」とか、
 壮大すぎてピンとこないな。

A いきなり『将来像』を実現するのは大変です。一つひとつ未来への種をまいて、取組を進めていけるように、一人ひとりが「〇〇したい」と思えるようになることを目標とする6つのライフステージを設定しました。

各ステージの取組によって、10年後の『好き』、『住みやすい』、『住み続けたい』が向上すると、それが『将来像』の実現につながります。









🍓 これだけは押さえよう!

まずはあなたが興味を持ったステージからのぞいてみましょう!

自分の将来像も考えると楽しいです♪

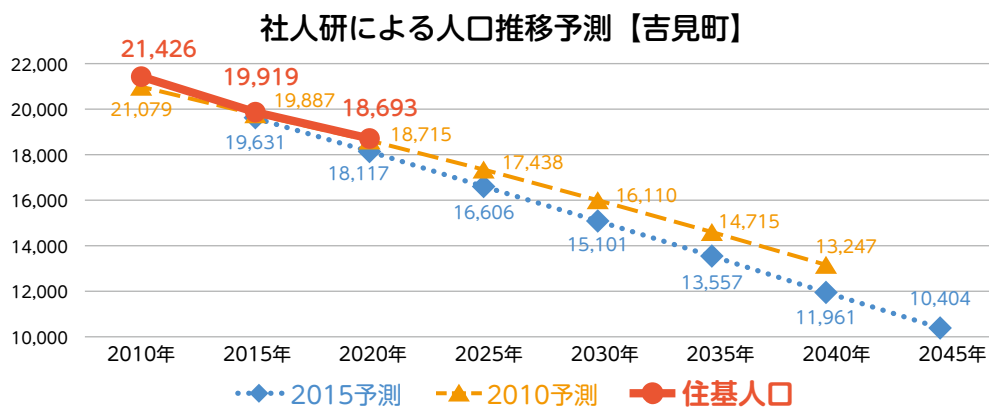
みんなで進めるまちづくりの目標となる6つの「ライフステージ」と、それぞれの「めざす姿」は次のとおりです。

| | ライフステージ別目標 | めざす姿 |
|---------------------------|--|--|
| 吉見らしさを感じながら、「〇〇したい」と思えるまち |  <p>よしみ01</p> <p>吉見で 育ちたい 育てたい</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●まちの将来を担う大切な「よしみっ子」たちが楽しみながら育っている |
| |  <p>よしみ02</p> <p>吉見で 学びたい</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが夢の実現に向けて充実した学校生活を送っている ●いつでも、どこでも、誰でも、様々な学びができ、活躍している |
| |  <p>よしみ03</p> <p>吉見で 働きたい</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの生活や個性に合った多様な働き方をしている ●地域資源を活かした産業に活力が生まれている |
| |  <p>よしみ04</p> <p>吉見で 暮らしたい</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●安全安心な環境で、快適な生活を送っている ●自助・共助・公助によって助け合いながら暮らしている ●心身ともに健康で、自分らしい生活を続けている |
| |  <p>よしみ05</p> <p>吉見を 知りたい</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●町の魅力が多くの人に伝わり、関心を持つ人、応援してくれる人が増えている |
| |  <p>よしみ06</p> <p>吉見の未来を 引き継ぎたい</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●まちの将来を「自分ごと」と捉えまちづくりに参加している ●自然や文化を大切に守り、みんなで未来へのまちづくりをしている |

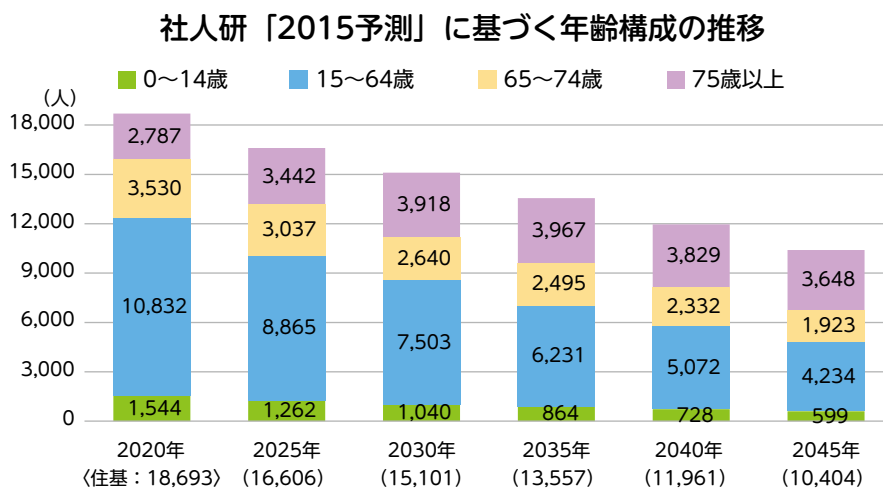
第5章 人口規模とまちづくり

? 基本的視点を意識しながら、「〇〇したい」と思えるまちづくりをみんなで頑張るのは分かったけど、これから人口が減っていくなかで、本当にできるの？

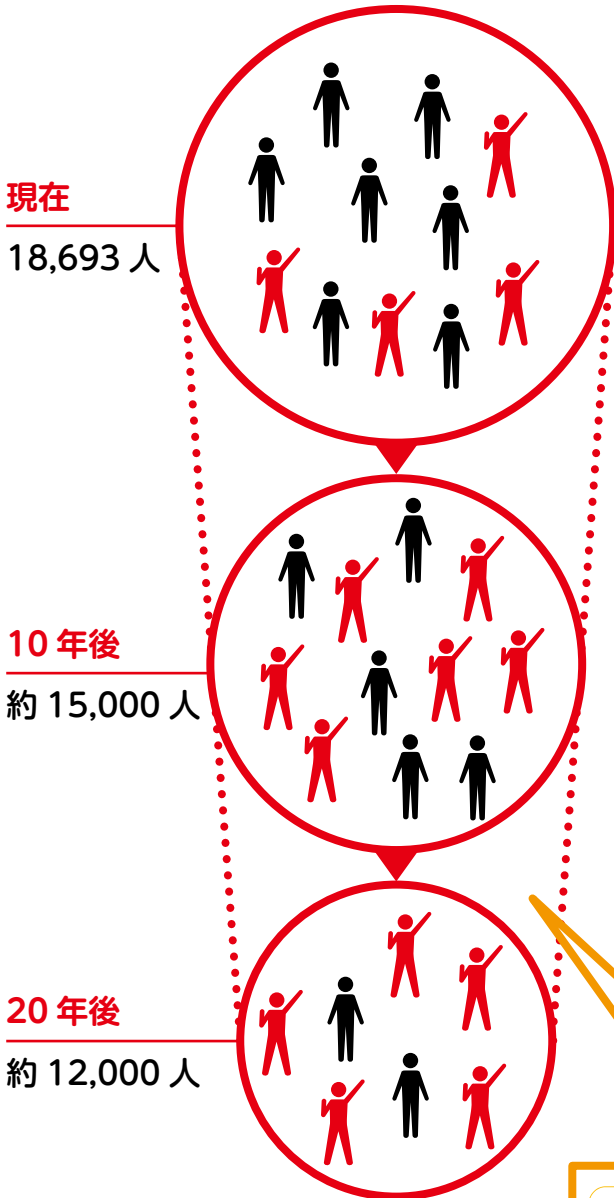
A 確かに、吉見町の人口は減っていきます。
人口減少が令和12年（2030）以降も進行していくことを踏まえて、この計画は、10年後を「ゴール」ではなく、20年先への「通過点」と考えています。



これまでの住民基本台帳人口は、社人研^{xii}の「2010 予測」に近い値で推移してきましたが、平成30年（2018）に公表された最新の「2015 予測」では、吉見町の年齢構成は、次のように推移していく見込みです。



^{xii} 社人研／国立社会保障・人口問題研究所。人口・経済・社会保障などの調査研究を行う厚生労働省の施設等機関。国勢調査の結果に基づき、全国の自治体の予測人口を公表している。



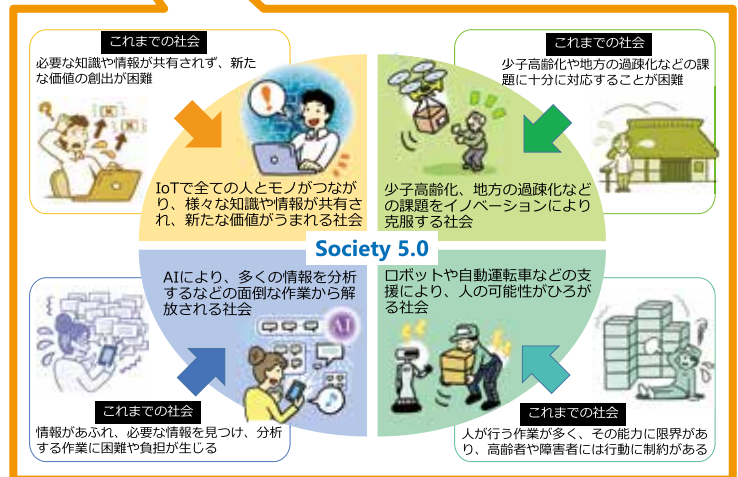
○ 吉見町の人口規模

人 により良いまちにしていけるために活動している人

💡 左の図は、より良いまちにしていけるために活動する人が増え、その人たちを応援する人が増えていくことで、人口規模が縮小しても、より良いまちになっていくまちづくりのイメージ図です。

また、これからのまちづくりは、すべて人の力でやろうとするのではなく、便利な技術などを活用していくことも大切になります。

**人の力に加えて
便利な技術も
活用していくことが大切です**

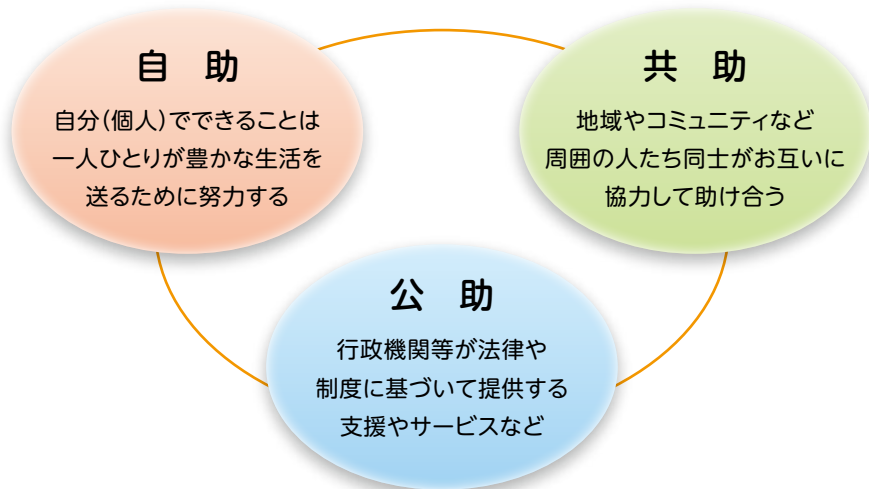


🍓 これだけは押さえよう!

「大きく・多く」にこだわらず、「より良く」を目指しましょう

? 私は中学3年生だから、10年後は25歳。人口がそのまま減ったら…と不安だったけど、人口が減っても、より良いまちづくりや快適な暮らしをする方法はあるんだね！
役場のみなさん頑張って!!

A もちろん、役場の職員も頑張ります！
でも、行政の力だけでは、一人ひとりの多様な「〇〇したい」は実現できません。ちょっと難しい言葉になりますが、これからのまちづくりは、「自助」、「共助^{xiii}」、「公助」（下図参照）がそれぞれ役割を果たしながら、お互いに連携・協力して進めていくことが大切になってきます。みなさんの協力が必要です。



? じゃあ、私たちができることってなんだろう？

まちづくりって…
何をすればいいのかな。

家の周りのごみ拾いをしたら、
これもまちづくりなんだよ…ね？



A はい、そのとおりです!!
まちがきれいになれば、「暮らしたい」と思う人が増えること、豊かな自然や環境を、次の世代に引き継ぐことにも、きっとつながります。

^{xiii} 共助／「共助」を更に2つに分類し、身近な人同士の助け合い・支え合いを「互助」、医療・年金・介護など、被保険者が負担する保険料によって、加入者へのサービスを提供する相互扶助制度を「共助」とする場合もあります。

特別
企画

未来へつなぐ みんなの想いを大募集

あなたの

「〇〇したい」

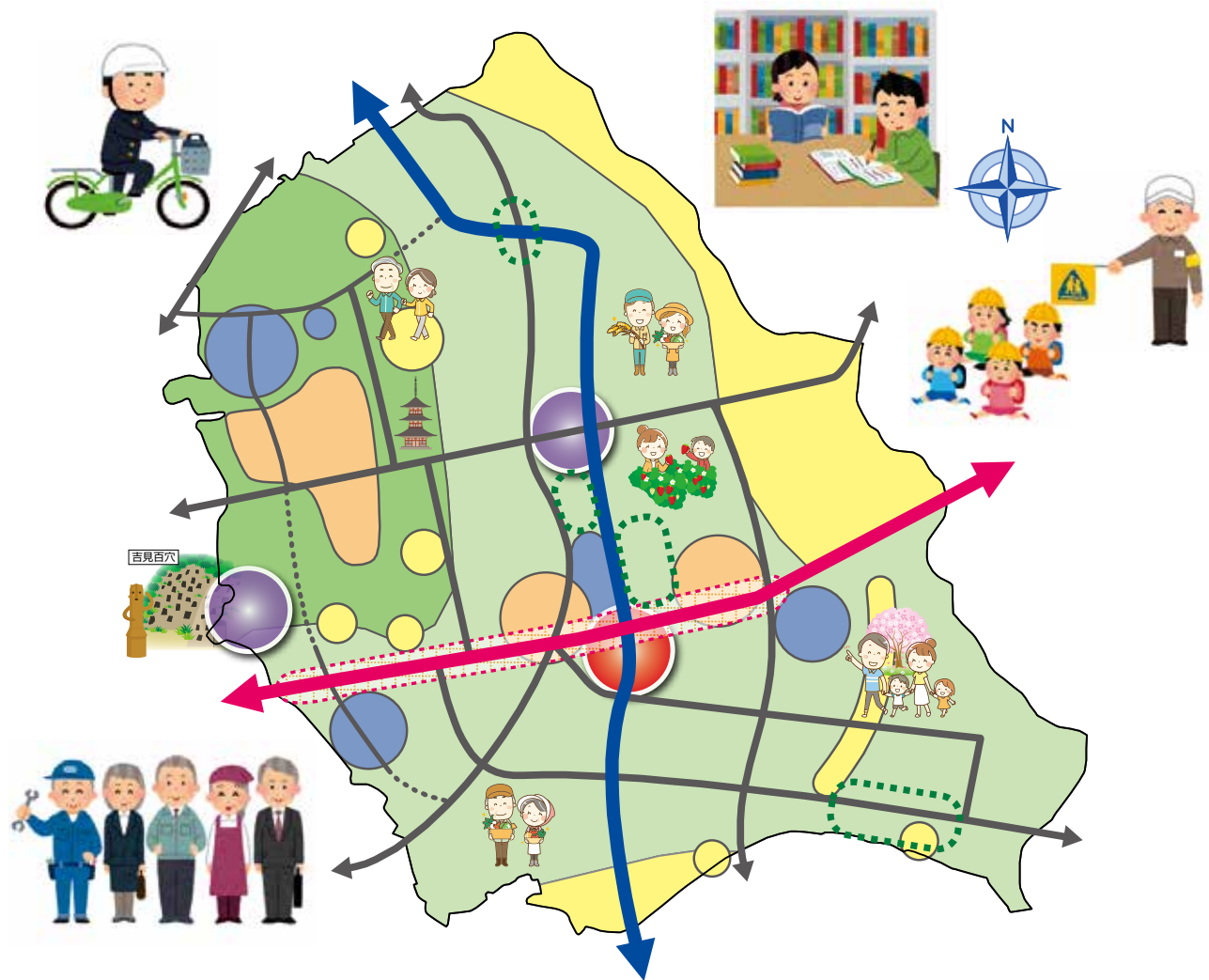
2



第6章 未来地図 —土地に、人の生活・想いを重ね合わせる—

人口が減少しても、土地の広さは変わらない点を踏まえ、充実したまちづくりや、より快適な暮らしの実現に向けて、従来の「土地利用」(ゾーニング)に「人の生活・想い」を重ね合わせ、将来を見据えたまちの基盤・環境づくりの指針として『未来地図』を定めます。

『未来地図』は、吉見町ならではの生活、町民の「守りたい」「育てたい」という想いを大切にしながら、「こんなまちにしていこう」、「吉見町でこういう暮らしを実現しよう」という方向性(意思)を見える化したものです。



| 凡例 | | | | | |
|----|---------------|--|------------|--|-------------------|
| | 東西の基軸(4車線道路) | | 産業交流拠点 | | 住居系ゾーン |
| | 南北の基軸(主要幹線道路) | | 文化・まちおこし拠点 | | 農業系ゾーン |
| | 幹線道路 | | 沿道活性化ゾーン | | 工業系ゾーン |
| | 計画道路 | | 活用検討エリア | | スポーツ・レクリエーション系ゾーン |
| | | | | | 緑地系ゾーン |

■産業交流拠点

東西、南北の交通アクセスの良さを活かして、農商工・観光の連携による魅力とにぎわいを生み出し、町内外から多くの人々が訪れる拠点として、現在の機能拡充に加えて、商業系施設の整備に向けた取組を進めます。

■文化・まちおこし拠点

図書館等複合施設の活用を図るとともに、史跡を訪れたり、イベントに集う人々の交流を図り、まちの芸術文化の継承と発展の中心とします。

■沿道活性化ゾーン・・・県道4車線化を活かす

4車線化する県道東松山鴻巣線の沿道は、地域全体の活性化、交通安全などを含めた町民の暮らしやすさの向上にむけて、道路整備と併せた土地利用を検討します。

■活用検討エリア・・・未来への種まき

時代や社会の情勢、住環境や営農環境との調和、地域の特性などを踏まえて、吉見町に適した産業への活用も含めた将来の土地利用について、幅広く検討します。

■住居系ゾーン

市街化区域は、良好な住環境を備えた市街地形成に努めます。丘陵部の住宅団地は、適正な宅地化への誘導とともに住環境の改善に努めます。

■農業系ゾーン

農業の振興を図るため、農用地の保全と有効活用に努めます。また、農道や用排水路を整備し、美しい田園景観の保護と創出に努めます。

■工業系ゾーン

工業・物流業の振興を図るため、工業用地の整備を企業立地と併せて促進します。また、交通基盤と用排水の整備を進めます。

■スポーツ・レクリエーション系ゾーン

八丁湖公園、吉見総合運動公園やサイクリングロードなどスポーツやレクリエーションを楽しむことができるよう整備を進めます。

■緑地系ゾーン

丘陵部は、文化財や自然の宝庫であることから、みどりの保全に努めます。

町民の想い・・・

| 守りたいもの | 育てたいもの |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然、のどかな田園風景 ・特産品の吉見いちご ・一人ひとりの健康 ・歴史や文化を感じられる場所 ・地域のお祭り、など | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもたち ・身近で買い物ができる商業施設 ・誰でも気軽に集まれる居場所 ・町外から人を呼び込める場所や施設 ・生きがいを感じられる仕事、など |